

## グループ討議の内容

グループ討議は、A、Bの2グループに分かれて行いました。各グループに、これまでの検討経緯及び住民意向アンケート調査の結果を踏まえ、整備区域毎に整備におけるポイント（環境、利用、景観、一番大事だと思うこと等）を整理した模造紙を用意しました。これを参考に、案Ⅰ（潜堤のみ、護岸部は既存の状態）、案Ⅱ（潜堤+消波ブロック撤去+護岸改良）の整備内容を想定し、適する範囲について意見を出して頂きました。討議の後、各グループの代表者に意見の内容を発表して頂きました。



Aグループ討議の様子



Aグループ発表の様子

### Aグループの意見

#### ◆護岸改良（遊歩道等）の範囲、磯浜へのアクセスについて

- ・免税店と九電保養所間の道は私道であるため、そこに護岸につながる動線を設定するのはよくない。
- ・現在、磯浜における小・中学生の課外活動では、消波ブロックより北側には行かないように指導されている。それを護岸の内側を歩けるようにするならば、新たな安全への配慮を考えなければならない。それならば、消波ブロックはそのままでもよい。仮に、護岸改良するにしても、円形テラス部分だけでよい。
- ・円形テラスの周辺でも磯浜の状況は異なる。上人ヶ浜公園付近は、比較的小さい別府石が多いが、灯籠のあるあたりは径の大きい石が並んでいる。実際に安全に磯遊びができるのは遊歩道に隣接しているあたりであり、円形テラス北側からは磯浜におりられなくてもいい。

#### ◆円形テラス陸上部、上人ヶ浜公園とのつながりについて

- ・齋藤研究室が提案した円形テラスの案はいいと思う。特に、丘案が良い。
- ・現在の上人ヶ浜公園内遊歩道（海岸沿い）の舗装がよくない。遊歩道の舗装を替えて、円形テラスとつながりのあるデザインにして欲しい。
- ・別府市は平成20年に景観計画と緑の都市計画を策定した。市民の要望が高まれば円形テラスを再整備する後押しになるかもしれない。

### Bグループの意見

#### ◆護岸改良（遊歩道等）の範囲、磯浜へのアクセスについて

- ・仮設道路の必要がない円形テラス部のみであれば、整備しても良いと思う。
- ・九電前の護岸改良は、仮設道路が必要となり、磯を荒らすため反対である。
- ・昔から、九電前の磯はアクセスしづらく危険なため遊ぶ人は少なかった。そこに降りられるようになれば活動の範囲が広がるのではないかな。
- ・我々が子どもの頃に味わった磯浜で遊ぶ体験を、孫や子どもに教えたい。
- ・消波ブロックは子どもにとって危険である。撤去されれば、活動の場が広がる。九電は護岸よりも背後の土地が低く、プライバシーや防犯について工夫ができるのではないかな。しかし、中央エリアは難しい。
- ・可能であれば、中央エリアまで海沿いを歩けるようにして欲しい。

#### ◆円形テラス陸上部、上人ヶ浜公園とのつながりについて

- ・上人ヶ浜公園からプロムナードや磯浜が円形テラスまで続いており、上人ヶ浜公園と円形テラスが一体的な空間として整備されることが望ましい。
- ・円形テラスからの海や高崎山の眺めは大変良い。以前は、正月の初日の出を拝む会もやっていた。円形テラス部も含めて整備されて、イベントができる場所になってくれるとよい。
- ・円形テラス部の護岸は取り除けないか。そのほうが利用しやすくなり子供の遊び場が広がる。
- ・円形テラスは、上人ヶ浜公園との連続性を確保し、テラスからの眺望を考慮している齋藤研究室作成模型の「丘をつくる案」が望ましい。



Bグループ討議の様子



Bグループ発表の様子

## お知らせ

上人ヶ浜地区の検討は3月15日の第6回検討会をもって終了します。4月以降にこれまでの上人ヶ浜地区の検討結果を住民に報告する「報告会」を実施する予定です。詳細については後日下記のホームページ等にてご案内致します。

※別府港海岸の整備に関する情報は下記別府港湾・空港整備事務所ホームページに随時掲載していきます。是非ご覧ください。  
<http://www.pa.qsr.mlit.go.jp/beppu/index.html>

# 別府里浜づくり新聞

第33号  
平成22年  
3月15日

## 第5回別府港海岸づくりワークショップ（上人ヶ浜地区）を開催しました



別府港海岸（上人ヶ浜地区）の整備計画の策定にあたり、「第5回別府港海岸づくりワークショップ（上人ヶ浜地区）」を、平成22年2月28日（日）午後1時半から3時まで1時間半程度、別府港湾・空港整備事務所で開催しました。（当初、別府市北部地区公民館での開催を予定していましたが、津波警報の発表により場所を移動。）

当日は8名の市民の方々にご参加頂きました。また、別途開催している別府港海岸整備計画検討会の小島委員長（九州共立大学教授）、齋藤委員（東京工業大学教授）にもご参加頂きました。

### ワークショップの内容

今回のワークショップは、前回と同様に2つのグループに分かれてのグループ討議形式で行いました。

はじめに、事務局から第4回のワークショップの主な意見と、検討会で議論した平面計画案3案（案Ⅰ：沖側に潜堤を整備し、護岸部分は既存の状態とする案、案Ⅱ：沖側に潜堤を整備し、護岸部分は消波ブロックを撤去し護岸改良する案、案Ⅲ：中央エリアは案Ⅰ、南部エリアは案Ⅱとした折衷案）作成までの流れについて説明を行いました。さらに、2月上旬に実施した住民意向調査の結果を報告しました。

次に、第4回ワークショップの後に開催された第5回検討会について、前回同様検討会の委員でもある菅座長よりご報告頂きました。（詳細は里浜づくり新聞第30号をご覧ください）

その後、グループ討議の説明に移りました。事務局よりグループ討議の主旨を説明したあと、護岸改良をする場合の空間整備のイメージについて、齋藤研究室に模型を用いて説明して頂きました。グループ討議では、案Ⅰ、案Ⅱの整備内容を想定して、それぞれの断面形状の適する範囲について意見をだして頂きました。討議後、各グループの代表の方に討議内容を発表して頂き、最後に、小島委員長よりグループ討議の意見について総括して頂きました。

### <第5回 別府港海岸づくりワークショップ（上人ヶ浜地区）会次第>

1. 開会
2. 事務局からの報告
  - ①第4回WSの主な意見と平面計画案作成までの流れ
  - ②住民意向調査の結果報告
3. 第5回検討会の報告
4. 平面計画案に関するグループ討議
  - ①平面計画案の考え方に関する説明
  - ②模型による検討内容に関する説明
  - ③グループ討議
5. 閉会



菅座長の挨拶の様子

### グループ討議での意見の概要

グループ討議での意見の概要は、以下の通りです。

- 中央エリア、及び、南部エリアの九州電力保養所までは、背後施設のプライバシーの確保、現状の利用が少ない点、さらに、最も重要な点として磯浜の保全（工事中仮設道路による磯浜への影響）の観点を考慮して、案Ⅰの断面（潜堤のみ、護岸部は既存の状態）が望ましい。
- 南部エリアの円形テラス部については、陸上からの施工が可能という条件のもと、上人ヶ浜公園との連続性や磯浜の利用を考慮して、案Ⅱの断面（潜堤+消波ブロック撤去+護岸改良）が望ましい。
- ただし、九州電力保養所の前面については、九州電力保養所の意向もあることから、九州電力保養所の意向を確認する必要がある。仮に、九州電力保養所は案Ⅱの断面が望ましいとした場合でも、工事中仮設道路の建設により磯浜を痛める可能性等があるため、九州電力保養所前面の案Ⅱの断面は避けることが望ましい。（※九州電力保養所に確認したところ前面護岸の改良は避けることが望ましいとの要望を得た。）
- 円形テラス陸上部は、上人ヶ浜公園との連続性の確保とテラスからの眺望を考慮した齋藤研究室作成模型の「丘をつくる案」が望ましい。市と協力して再整備を行ってはどうかな。

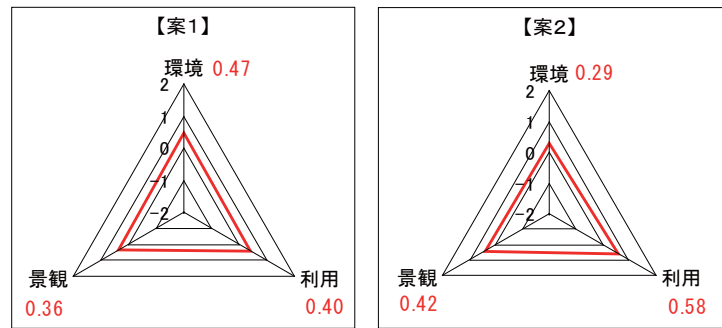
### 住民意向調査の結果報告

平成22年2月1日～平成22年2月10日に実施した住民意向アンケート調査の結果を報告しました。アンケート調査の概要は以下のとおりです。

- 実施期間：平成22年2月1日～平成22年2月10日
- 実施方法：アンケート票を郵送し、返信回収
- 調査対象：ワークショップの開催案内を送付する名簿に記載されている住民137名
- 回答数：45人（回収率33%）
- 実施目的：平面計画案の案Ⅰと案Ⅱについての意見収集

### 【問1】「環境」・「利用」・「景観」に関する各案の評価

- ・案Ⅰは、「環境」に対する評価が高く、案Ⅱは「利用」、「景観」に対する評価が高い。
- ・案Ⅱの「利用」の評価が0.58で最も高い。



※5段階評価を得点化（「大変良い」+2、「良い」+1、「どちらとも言えない」0、「良くない」-1、「全く良くない」-2）し回答人数で割り出した平均値

### 【問2】「環境」・「利用」・「景観」の観点別の重要度

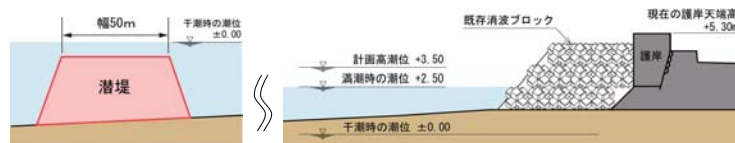
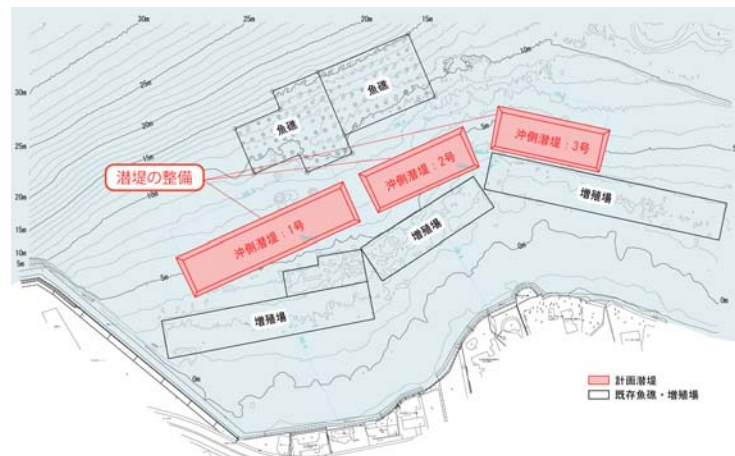
- ・最も重要な観点としては、「環境」（19人）が最も多く、次いで「利用」（10人）、「景観」（7人）となった。
- ・最も重要な観点、重要な観点を合計しても、「環境」（36人）、「利用」（28人）、「景観」（20人）の順となった。

評価	環境	利用	景観
最も重要	19	10	7
重要	17	18	13
無し	9	17	25
合計	45	45	45

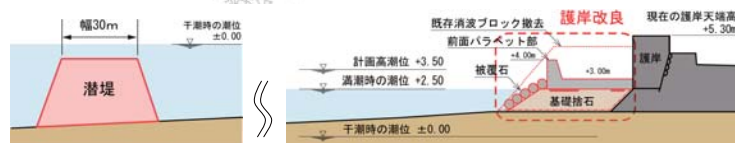
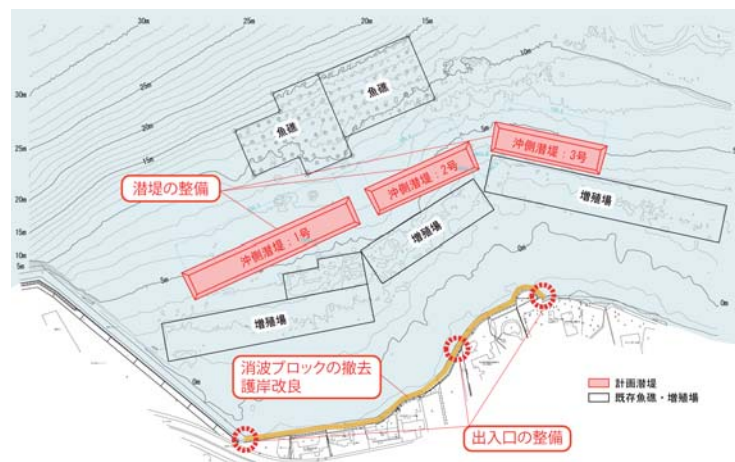
### 【問3】海岸整備にあたり一番大事だと思うこととその範囲

- ・上人ヶ浜の海岸整備にあたって一番大事だと思うことを「環境」、「利用」、「景観」に分類すると以下のようになる。環境の「自然保護・磯の保全」が最も多くあげられた。
- ・磯浜として保全したい範囲は、南部エリアで、特に円形テラス部前面の水域は上人ヶ浜公園の前面水域と一連の空間として捉えられている傾向がみられた。
- ・磯遊びや自然観察等の利用を求める範囲は、磯浜として認識されている範囲とほぼ同じで、円形テラスを中心に南部エリアに多く示された。

大分類	中分類	範囲
環境	●自然保護・磯の保全	上人ヶ浜公園～円形テラス～九電保養所
	●磯遊び・自然観察等の利用	上人ヶ浜公園～円形テラス～免税店
利用	●遊歩道の整備	円形テラス～九電保養所～旧フットパーク
	●プライバシー確保	九電保養所～旧フットパーク
景観	●海岸の連続性	上人ヶ浜公園～円形テラス～旧フットパーク
	●快適性、親水性	上人ヶ浜公園～円形テラス～晴海



案Ⅰの平面計画案及び断面案



案Ⅱの平面計画案及び断面案

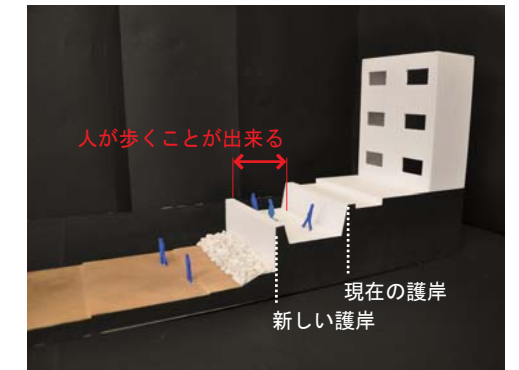


海岸整備にあたり一番大事だと思うこととその範囲

### 東京工業大学齋藤研究室からの南部エリアの護岸改良案について模型を使って説明していただきました

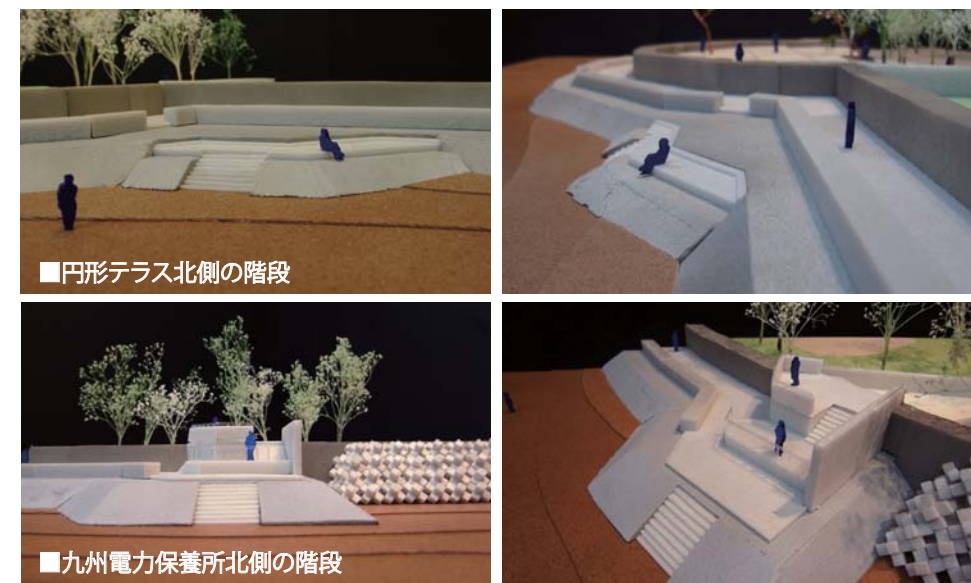
現在検討しているパラペット後退型の護岸改良は、消波ブロックを撤去し、現在の護岸の前面に新たに現在の護岸よりも低い護岸を設けるもので、その間を人が歩くことが検討出来ます。この空間を上人ヶ浜公園の水際の遊歩道の延長として取りつけることで、磯浜へのアクセスという利用面や消波ブロックの撤去による景観面の改善を図ることが検討出来ます。

そこで、齋藤研究室からは、上人ヶ浜公園の魅力をどのように活かしていくかをポイントとして、上人ヶ浜公園と連続する南部エリアを中心に、海沿い空間の魅力を高める提案として、①護岸背後から浜側へ降りる階段の設置、②円形テラスの改善、の2点について模型をつかって具体的な空間イメージを説明して頂きました。



パラペット後退型の護岸断面

### ①護岸背後から浜側へ降りる階段の設置



### （護岸背後から浜側へ降りる階段の設置）

- 円形テラス北側の階段
  - ・磯遊び等の利用は、上人ヶ浜公園から円形テラス部前面の磯浜が中心である。
  - ・上人ヶ浜公園側に加え、磯遊びをするための2つめアクセスとして、円形テラスの北側に階段を設ける。
  - ・新たな護岸の外側を広くとり、磯浜に降りられるだけでなく、浜と距離が近い場所であつろげるスペースとする。

### ○九電保養所北側の階段

- ・国道10号から海岸に抜ける道路（一部私道）があり、上人ヶ浜公園から海岸沿いを通り国道に抜けるルートとなる。
- ・護岸の内側にある既存の階段を利用し、護岸の外側に新たに階段を設ける。
- ・現在の護岸と同じ高さにスペースをつくり、小さな展望場所とする。
- ・既存の消波ブロックとの境界は擁壁で仕切り、景観面に配慮する。

### ②円形テラスの改善



### （円形テラスの改善）

- 地盤を高くする案
  - ・海や高崎山の眺めをより楽しむために、円形テラス内の地盤を海側に向かって高くし、護岸天端高との高低差を小さくし、開放的な眺望を提供する。全体にシンプルなデザインで構成する。
  - ・上人ヶ浜側の現在スロープのある部分は階段で処理し、北側は植栽を配して木々の中をくぐって海側にアプローチするスロープを設ける。

### ○丘をつくる案

- ・上人ヶ浜公園の芝生地が連続するイメージで、円形テラス内の北側にマウンドを設け、視界の開けた眺望の良い芝生の丘をつくる。丘の周りには固い舗装で平らな面とする。
- ・上人ヶ浜側の現在スロープのある部分は階段で処理し、平らなスペースにつなげる。マウンドさせた丘の縁と平場の段差を利用し、腰かけられるようにする。
- ・全体的に北に向かって緩やかに傾斜させ丘の北側の縁のレベルにすり合わせる。